

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 197人 国語B 197人

② 数学A 197人 数学B 197人

5 留意事項

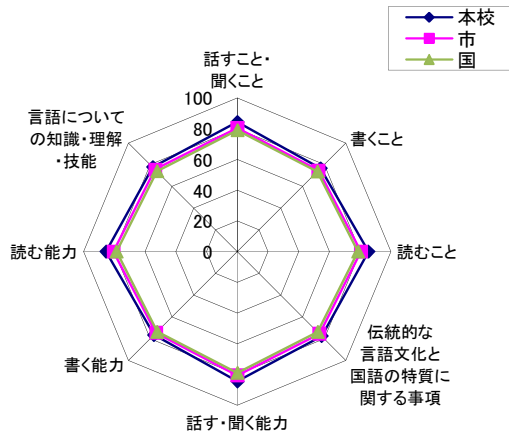
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

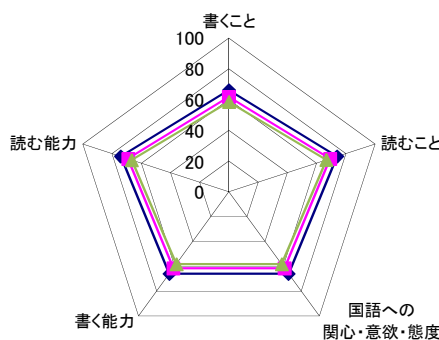
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	84.4	80.5	78.9
	書くこと	76.7	74.7	73.7
	読むこと	85.3	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.7	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	84.4	80.5	78.9
	書く能力	76.7	74.7	73.7
	読む能力	85.3	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	77.7	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	66.0	61.6	58.3
	読むこと	74.0	69.1	66.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	66.0	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	66.0	61.6	58.3
	読む能力	74.0	69.1	66.6
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

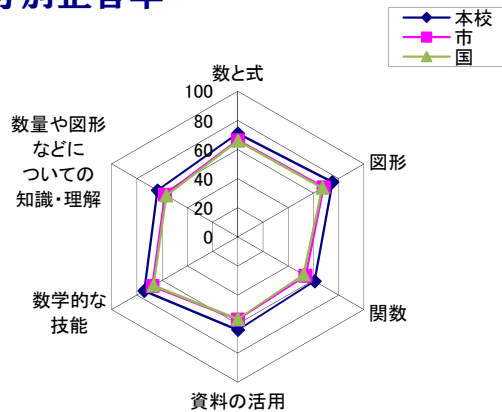
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国や市と比べると本校の正答率は全ての問いで高かった。国や市よりも5ポイント以上高いものも多く、話すこと・聞くことの理解は非常に高いことがわかる。特に「相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す」問題では、約96%の生徒が正解していた。 これは、中学校の取り組みだけでなく、各小学校での取り組みや各家庭での生活も大きく関係していると思われる。	●知識の分野では80ポイントを超える正答率であったが、活用の分野では70ポイントを切る正答率もあったため、知識だけでなく日常生活でも使えるよう、普段の言葉遣いや会話に注意しながら指導していきたい。 ●地域の連携を密にして、今後も生徒の学習意欲の向上に努めたい。
書くこと	○国や市と比べると本校の正答率は高かった。市に比べて、知識の分野では2ポイント、活用の分野では4.4ポイント高い。特に「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」問題では全国と比べて6.6ポイント、市と比べると7ポイント高かった。 ●生徒の個人差も大きく、書くことを苦手としている生徒も多い。また、自分の考えを書くことが得意でない生徒も多い。	●普段から書く作業を授業に多く行い、書くことに対する抵抗を少なくしたい。 ●個別指導やグループ活動を通して、書くことに慣れ親しませたり、生徒間の人間関係を良好なものとし、誰にでも自分の意見を言える状況を作ったりしながら、自信を持って自分の考えを出せる環境作りを心掛けたい。
読むこと	○市と比べると本校の正答率は5ポイント程度高かった。特に「目的に応じて必要な情報を読み取る」問題では国や市と比べて14ポイント近く高かった。 ●「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」問題では正答率が60%を下回っていた。自分の知識を活用するなど、発展的な問題では正答率が低くなる傾向がある。	●説明文では繰り返し出てくる言葉や接続表現などに着目し、文章を正確に読み取る力を身につけさせたい。 ●小説などでは、直接的な表現だけでなく、行動や情景、行間から登場人物の心情を読み取る活動を多く取り入れたい。 ●言葉の学習を通して、国語で身に付いた力が多くの場面で活用できる話題を多く取り入れ、知識に偏らない活動にしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国と比べると4ポイント程度、市と比べると2ポイント程度本校の正答率は高かった。特に「辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える」問題では国や市と比べて5ポイント以上高かった。 ●同音異義語の問題では正答率が23ポイント、「文字の形や大きさ、配列に注意して書く」問題では正答率が約38%と正答率が低かった。	●生徒個人の興味関心によって語彙力の差が大きく、また、生活環境によって理解している語彙力の偏りが見られる。割と読書への興味や習慣付けができてきていることから、他分野への興味を広げ幅広い知識を養えるような働きかけを行いたい。 ●漢字については繰り返しが必要のため、小テストの実施や定期テストへの意欲付けを行いたい。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

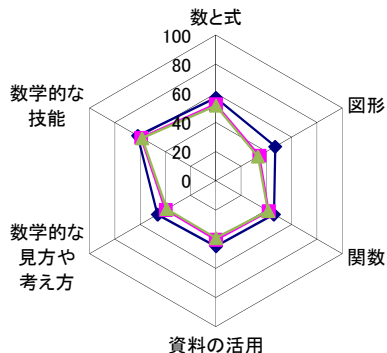
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	70.9	66.4	65.9
	図形	75.0	68.1	67.1
	関数	61.0	53.7	52.0
	資料の活用	64.0	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	74.3	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	63.7	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	57.0	52.7	51.5
	図形	47.0	34.5	33.3
	関数	46.0	41.9	41.4
	資料の活用	44.9	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	46.2	39.9	38.9
	数学的な技能	61.9	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○数学A、Bともに平均正答率は全国平均を上回っている。特に、数学Bでは全国平均を5.5ポイント上回っている。</p> <p>○数学A、Bともに、方程式に関する問題では、全国平均と比べて10ポイント以上正答率が上回っている問題が何問かある。</p> <p>●自然数の意味や割り算での割る数・割られる数・商・余りの関係の理解が不十分な生徒が多い。(正答率約40%であった)</p>	<p>・基本的な計算の技能は身に付いているが、より速く正確に計算できるように、反復練習の機会を設けていきたい。</p> <p>・言葉の意味などの知識が不十分なため、間違えてしまうことがあるので、小テストなどを利用して数学に関する知識の定着を図っていきたい。</p>
図形	<p>○数学A、Bともに平均正答率は全国平均を上回っている。特に、数学Bでは全国平均を13.7ポイントも上回っている。</p> <p>○ほとんどの問題で、正答率が全国平均を10ポイント以上上回っている。特に、数学Bの三角形の合同の証明に関する問題では、全国と比べ正答率が15ポイント以上高い。</p> <p>●作図に関する問題の正答率が、他の問題と比べて低くなっている。</p>	<p>・基本の作図の方法は理解しているが、なぜその方法で描くことができるかの理解が不十分なため、問題によってどの作図を利用してよいのか分からなくなる生徒が多い。1つ1つの作図の方法の意味について、復習していきたい。</p> <p>・図形に関する知識・理解については、しっかり身に付けている生徒が多い。今後はさらに筋道を立てて説明する力を高めるため、言語活動をより多く取り入れていきたい。</p>
関数	<p>○数学A、Bともに平均正答率は全国平均を上回っている。特に、数学Aでは全国平均を9.0ポイント上回っている。</p> <p>○1次関数に関する問題の正答率が全国平均よりも10ポイント以上高くなっている。特に、変域を求める問題、1次関数の事象を式で表す問題がよくできている。</p> <p>●数学Bで、表をもとにyの値を求める問題のみ、正答率が全国平均を下回っている。</p>	<p>・表・グラフ・式との関連性を意識した授業を取り入れ、それぞれの表し方のよさを感じられるようにするとともに、問題にあった表し方を活用できる力を身に付けられるようにしたい。</p> <p>・日常生活に密着した問題を解く機会を多く設け、関数的な思考力を育てる機会としたい。</p>
資料の活用	<p>○数学A、Bともに平均正答率は全国平均を上回っている。特に、数学Aでは全国平均を7.5ポイント上回っている。</p> <p>○特に、確率の問題での正答率が、全国と比べて高くなっている。</p> <p>●他の内容に比べ、「資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明する」力が弱い。</p>	<p>・1つの資料を表や棒グラフ、円グラフなどのさまざまなグラフに表すことや、それらのグラフから傾向を読み取ること、また、比例や1次関数の形に表す力を身につけさせたい。</p> <p>・関数と方程式などの複合的な問題にも積極的に取り組ませるようにしたい。</p>

宇都宮市立豊郷中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

すべての質問で肯定的な回答の割合が高く、また、全国や県を上回っている項目が多いことから、本校生徒は前向きな態度で生活している様子がうかがえる。

<学習に関すること>

○学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間が2時間以上の生徒や学校が休みの日における勉強時間が3時間以上の生徒が、全国や県と比較して多い。

●学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間が1時間未満の生徒が、全国や県と比較して多く、その中でも30分未満の生徒が多い。

○学校や地域の図書館を利用する割合や「読書が好きである」と答えている割合が、全国や県よりも高い。

○学校の授業の予習を「している」「どちらかといえばしている」と答えている生徒が32.8%であるのに対し、復習は52%と19.2ポイント高いことから、家庭学習の中心が授業の復習や宿題であることがうかがえる。

●学校の授業の予習・復習を「している」「どちらかといえばしている」と答えている生徒がそれぞれ予習32.8%・復習52%であるが、これは県の予習38.1%・復習63.7%という結果を下回っている。

●『自分で計画を立てて勉強しているか』の質問では、肯定的な回答が47.5%に対して、「あまりできていない」と答えている生徒が41.4%とほとんど変わらず高いため、学習方法についての指導もさらに充実させていく必要がある。

<学校生活等> <地域との関わり等> <社会に対する興味・関心>

○『学校に行くのは楽しいか』の質問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている生徒は89.9%で、全国や県の割合を上回っている。

○『学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはあるか』の質問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている生徒は93.4%で、全国を9.2ポイント、県を5.8ポイント上回っている。

○『地域の行事に参加しているか』の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている生徒が、全国や県よりも多い。

○地域や社会の出来事への関心では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている生徒は79.3%で、全国を13.5ポイント、県を8.6ポイントと大きく上回っており、本校生徒の地域や社会に対する興味・関心の高さがうかがえる。

○『地域社会などでボランティア活動に参加したことがあるか』の質問では、「参加したことがある」と答えている生徒は78.3%で、全国を29.6ポイント、県を28.8ポイントと大きく上回っており、本校生徒の地域ボランティア活動への興味・関心の高さがうかがえる。

<自尊意識> <規範意識>

○『ものごとを最後までやり遂げてうれしかったか』の質問では、肯定的な回答が97.5%と高く、全国や県の割合を上回っている。

●『自分にはよいところがあるか』の質問では、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えている生徒は30.8%で、県を4.9ポイント上回っており、自尊感情がやや低い傾向があることがうかがえる。

<家庭生活>

○テレビやビデオ・DVDの視聴時間、テレビゲームをする時間では、いずれも全国や県よりも少ない生徒が多い。また、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの利用時間も全国や県よりも少ない生徒が多い。

○『家で学校の出来事について話すか』の質問では、「話す」「どちらかといえば話す」と答えた生徒が77.3%で、全国や県の割合を上回っている。